

2024 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生美容専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生美容専門学校の2024年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2025年 1月 31日

麻生美容専門学校

目次

I	教育理念・教育目標（育成人材像）	- 3 -
II	重点項目	- 5 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 8 -
	基準 1 教育理念、目的、育成人材像	- 8 -
	基準 2 学校運営	- 9 -
	基準 3 教育活動	- 14 -
	基準 4 学修成果	- 20 -
	基準 5 学生支援	- 22 -
	基準 6 教育環境	- 24 -
	基準 7 学生募集	- 26 -
	基準 8 財務	- 27 -
	基準 9 法令遵守	- 28 -
	基準 10 内部質保証	- 29 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献	- 30 -

評価結果

- S：適切
- A：ほぼ適切
- B：やや不適切
- C：不適切

I 教育理念・教育目標（育成人材像）

教育理念

技・創・信

麻生塾の教育理念を踏まえ、世界基準の美容の技術・創造性を磨き、自信・信頼など心の力を兼ね備えた美容業界のグローバルシティズンを育成する。

教育目標（育成人材像）

世界基準の美容師として活躍し続ける人材

1. 国家試験合格レベルの知識・技能の修得に加え、世界基準の技術、創造性にふれ、向上心をもって学び続ける姿勢を身につけた人材
2. 学校生活、学校行事を通じて人との良好な関わり方（感謝心・思いやり）を学び、多様な価値観を受け入れ、周囲との信頼関係を構築できる心の力を備えた人材
3. 美容師の社会的使命や職業倫理を理解し、長期的な視点でのキャリア形成により、志をもって美容業界に貢献し続ける人材

●課程修了の方針（ディプロマ・ポリシー）

本校では、教育目標となる「育成人材像」を踏まえ、以下のような能力を備えた学生に対し、卒業を認定します。

1. 美容技術力 (Hand Work)
 - ・美容師国家試験課題合格レベルの知識・技術力
 - ・世界トップサロンとの連携による国際基準の技術認定（ディプロマ）を取得する力
 - ・「選択コース授業」による、メイク・ネイル・ブライダルなど付加価値となる技術力
2. 創造力 (Head Work)
 - ・常に高い美容に対する意識をもち、あらゆる機会を通して感性を磨き、自らの作品を制作できる力
3. 人間力 (Heart Work)
 - ・グローバルシティズン教育に基づく人間力をベースに、周囲との協働、感謝・思いやりを表現できる力

●教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本校では、美容師養成施設指定規則および指導要領、ならびに教育目標（育成人材像）に則り、学生が体系的かつ主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実践します。

- ① 美容師養成施設指定規則による「必修課目」、ならびに「選択必修課目」「一般課目」をとおして卒業認定に掲げる各能力を身につけることができるよう、課目ごとの到達目標を明確にし、評価する。
- ② 美容業界との産学連携により、世界基準、トップレベルの美容を体感する各種教育プログラムを展開し、感性を磨き、求められる知識・技能を認識することにより、職業観を醸成する教育を実践する。
- ③ 「社会人基礎力」の学びの視点を活用し、美容業界で活躍し続けるために必要な能力の醸成を図る。

●入学生受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校の求める学生像は以下のとおりです。

- ① 感謝と思いやりの心もち、美容の仕事を通じて世の中に貢献したい人考える人
- ② 向上心もち、新しい知識や技術の習得に熱意をもって取り組むことができる人
- ③ 相手の立場や考え方の違いを理解し、多様な多くの仲間と切磋琢磨できる人

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ① 美容師国家資格取得率 100%を目指す
- ② 学習・就職支援
- ③ 企業とのコミュニケーション

2. 取組み状況

- ① 美容師国家資格取得率 100%を目指す

美容師国家試験の合格率は、年度当初の目標を下回り、本年度の重要課題の一つとなっています。学生が「国家試験」に合格して初めて、美容師として社会で活躍できることから、美容師国家資格の取得は、美容学校の「存在意義」を問う重要な指標といえます。そのため、全員が無事に資格を取得することを、本年度の重点目標の一つとして取り組んでまいりました。

【実技試験対策】

実技試験対策として、2024年度初めに技術習得の指針を学生に示し、月1回の進捗確認を実施しました。技術の未到達者に対しては、放課後にフォローアップ授業を行い、習得をサポートしました。また、レベル別のクラス編成を行い、学生一人ひとりの習熟度に応じた授業を実施することで、技術習得の均一化を図ってまいりました。

【筆記試験対策】

筆記試験対策では、国家試験科目に対応する問題を作成し、前期試験では2択200問の形式で実施しました。正答率の低い学生にはフォローアップ授業を行い、再テストを通じて理解度を確認しました。後期試験では、試験回数を2回に分け、10月に実力試験、2月に後期末試験を実施し、複数回のチェックを可能にすることでPDCAサイクルを回しました。今後は、習熟度別クラス編成をさらに推進し、学生のレベルに応じた筆記試験対策を強化していく予定です。

- ② 学習・就職支援

本校では、学生が1年次から国家試験と就職の二本柱を意識しながら学校生活を送ることを目標としています。2024年度より、美容科の担任は自身の担当科目に加え、非常勤講師が担当する科目についても授業中に教室内を巡回し、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけるよう指導しています。全員が同じレベルで成長できるよう配慮し、授業の進捗に遅れが生じないように、欠課した学生に対し補習を随時実施しています。また、就職に関しては三者面談やホームルームの場を活用し、「内定は国家資格を取得したうえでの入社が前提である」ことを繰り返し伝えていきます。2年次のスケジュールでは、就職試験を経て国家試験に臨む流れとなるが、最も重要なのは国家試験の合格であり、それを前提とした就職であることを一貫して指導しております。

- ③ 企業とのコミュニケーション

本校では、美容業界をリードする多様な分野のスペシャリストを講師としてお招きし、学生が最新の技術や考え方を学ぶ「プログレッシブセミナー」（以下、「プログレッシブセミナー」）を12回実施しました。セミナーでは、日本国内のみならず世界で活躍する現役美容師によるカット技術などを学生が直接学ぶ機会を提供しました。さらに、実技授業として、カットやシャンプーの指導を福岡市内の複数のサロンで活躍する美容師を講師として行い、学生の技術力向上を図りました。

3. 総括（成果と課題）

① 美容師国家資格取得率 100%を目指す

2024年度は、「美容師国家試験全員合格」をスローガンに掲げ、最重要課題として職員全員で取り組んでまいりました。

実技試験

実技試験においては、日々の授業で学生一人ひとりの技術力に応じたきめ細やかな指導を行い、ほぼ全員が合格レベルに到達しました。

筆記試験

筆記試験対策としては、例年より約2か月早く準備を開始し、前期試験後には保護者等を交えた三者面談を実施しました。この面談では試験結果と対策を共有し、家庭での協力体制を構築しました。また、1月以降は実技指導と並行して座学の対策授業も進め、全員合格に向けた取り組みを強化しています。

課題

現状の課題として、以下の点が挙げられます

- 授業内容の進度にばらつきが見られること
- 教員の適切な配置の必要性
- 筆記試験を苦手とする学生への更なるフォローアップ

国家資格の全員取得を確実にするためには、これらの課題を解消することが求められます。そのために、習熟度別クラス編成を含めた総合的な分析と考察を進める必要があると考えています。

② 学習・就職支援

本校では、1年次担任全員が、非常勤講師の授業を含む授業中の教室を巡回することで、学生が緊張感をもって授業に臨む姿勢が多く見受けられました。また、この取り組みにより、教員と非常勤講師の間で授業手法や学生指導に関する情報交換をおこなっています。就職に関しては、全員が早い段階で、就職活動前に学内で実施した面接テストに合格しています。

③ 企業とのコミュニケーション

プログレッシブセミナーにて講師となったサロン等へ 受講した学生の内 20名の学生が就職先として内定をしました。これは、同セミナーを通して東京都等の有名サロンの企業研究の機会となり学生の就職活動への支援の一環として成果がありました。

一方で 同セミナー講師と教員との授業後の振り返りの機会がなく2025年4月からは、セミナー後定期的に講師と教員とのコミュニケーションの時間を設ける予定です。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾の教育理念は、「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ること」と定めています。また、麻生美容専門学校では、教育理念として「技・創・心」を掲げています。本校は、「志」の高い「美容業界で活躍し続ける人材」の育成を目指しています。これらの法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的および育成人材像については、ホームページ、学生便覧、学校紹介パンフレット、オープンキャンパス、入学予定者対象の説明会、高校教員対象の説明会、学内企業説明会などを通じて学内外に明示し、広く周知しています。また、講師会や学校関係者評価委員会でも確認し、定期的に点検を実施しています。特に新入生に対しては、これらの内容を掲載した学生便覧を全員に配布し、オリエンテーションやホームルームを通じて指導しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	各学科の教育目標（育成人材像）を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====
基準 2 学校運営
=====

中項目 2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

本校では、教育理念に基づき運営方針を策定し、説明用の資料を作成しています。
この資料は、毎年年初に開催するキックオフミーティングで全教職員に共有しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目 2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

本校では、年初に年度の運営方針を定め、その方針に基づき事業計画を策定し、全教職員へ周知しています。さらに、各課程では校務分掌を作成し、計画に沿って執行しています。事業計画の執行状況は、定期的に教員会議などで確認しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S

中項目 2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化され、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を隔月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が情報共有を行う部門長会議など各階層別・目的別で必要な会議体が設計されており、計画通りに開催されている。

【取り組み状況】

事務職員の能力向上については、担当業務に必要な知識及びスキルと本人の意欲を鑑みた上で、個人の目標設定に取り入れ、勉強会や研修への参加を促している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-3	運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に行われているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目 2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書が法令に遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程のメンテナンスを実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。

2024年4月の人事制度改正にて、新制度設計の整備が完了し、教職員への変更点説明会を実施し周知を行った。併せて、各個人の理解が深まるよう新旧対照表とともにFAQを公開し周知されている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目 2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

情報システム化により、業務を効率的に遂行しています。学生情報や教職員の勤怠管理を含めた情報システム化を進めており、学校法人麻生塾独自の情報管理システム「麻生塾システム」を活用して、広報、入試、学籍、教務、就職など学校運営に必要な情報を一元管理しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S

=====
基準 3 教育活動
=====

中項目3-1

教育理念、教育目標（育成人材像）に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育目標（育成人材像）に基づき策定されたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを明示し、学校構成員（教職員および学生等）に周知するとともに、社会に公表しています。教育課程は、これらのポリシーに基づいて編成・実施されています。

学校構成員への周知方法として、学生には各クラス内で教員による読み合わせを行い、常勤教職員および非常勤講師には教務室内に常設掲示を行い、常時確認できる状態にしています。また、ホームページ上で広く社会に公表しています。さらに、年間計画立案時に定期的な検証を行っています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目標（育成人材像）に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標（育成人材像）に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

- ① 本校では、職業実践専門課程の認定要件に基づき、教育課程編成委員会にて業界ニーズ・社会ニーズの把握に努めています。そこで得た情報を基に、校長代行を中心にカリキュラム会議を実施し、カリキュラム編成委員会の意見も踏まえてカリキュラムを編成しています。カリキュラム・ポリシーに基づき、実践的な職業教育の視点に立った教育内容の定期的な見直しを行い、教育の充実を図っています。
- ② 専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体との連携として、全世界に40カ国680店舗を超える「トニー&ガイ」のカットシステムを導入するなど、時代のトレンドに沿った技術を学生に提供しています。「トニー&ガイ」をはじめとした業界のトップスタイリストと交流を活発にすることで、業界理解を深めるとともに実践教育の場として活用しています。さらに、2023年度より導入したフランス・パリを発祥とする世界的ヘアブランド「モッズヘア」の教育を2年生の選択授業内で実施し、全受講者がディプロマ取得をしている。
- ③ 教育課程の編成・実施方針およびカリキュラムマップに基づき、実践的かつ専門的な教育課程を体系的に編成しています。実践的な職業教育については、全世界に40カ国680店舗を超える「トニー&ガイ」のカットシステムを導入するなど、時代のトレンドに沿った技術を学生に提供しています。「トニー&ガイ」をはじめとした業界のトップスタイリストとの交流を活発にすることで、業界理解を深めるとともに実践教育の場として活用しています。実施内容については、定期的な検証を継続的に行っています。
- ④ 授業に関しては、シラバスおよびコマシラバスをもとに授業を行い、授業開始時には学生への説明・周知を行っています。また、学習内容に変更があった場合には、シラバス内に記録を追記できるようにしています。
- ⑤ 専攻分野における実践的な職業教育として、インターンシップを実施し、学生たちは実際に職場体験を行いました。また、上述の「トニー&ガイ」のベーシック検定を学生全員が受験し、合格しています。
- ⑥ キャリア育成についても、学校法人麻生塾オリジナルの課目を履修に加え、日々の学生指導とともに、社会的・職業的自立を促しています。

【課題及びその改善方策】

本校は、産学連携を通じて地域企業と協力し、共同プロジェクトの実施や技術指導、人材育成を行うことで、美容業界の活性化と学生の成長を促している。しかし、教育目標や企業連携の意義、教育課程の編成・実施方針について、学生への十分な理解が浸透していない。2025年度は、学年別ガイダンスを実施し、これらの周知徹底を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業評価は、前期・後期に各1回全学年の学生を対象に授業アンケートを行っています。この授業アンケート結果は各教員に共有されます。その結果をもとに、校長代行及び主任と改善策についての面談を行っています。面談では、本人にフィードバック(授業とクラス運営についての評価や改善点を伝え、内容の良化を促す)を行い学生指導や授業方法について改善を促しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	S
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価、単位認定、進級および卒業判定に関する規程は、学生便覧に記載し、評価項目についてはシラバス等を通じて学生全員に周知しています。すべての科目で、学内で定められた成績評価基準に基づき、適切に成績評価を実施しています。進級および卒業判定についても基準を定め、学校責任者の立会いのもと、適切に判定を行っています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

本校では、専修学校設置基準をはじめとする関連法令を遵守し、教員要件および定員に対する法令上必要な人員を適切に配置しています。専門性と経験を備えた教授能力のある教員を確保しており、質の高い非常勤教員を含む教員組織体制を整備しています。

各学年にはリーダーを配置し、適切な助言や指導が行えるよう組織体制を構築しています。新任教員に対しては、指導役教員をチューターとして配置し、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング、実務を通して学ぶ訓練）を実施することで、指導力の向上および組織への適応を促しています。

さらに、教員の専門性や指導力を維持し、資質・能力を向上させるために、企業と連携し、トニー&ガイ認定講師資格更新研修やモッズヘア認定講師研修を受講しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S

=====
基準 4 学修成果
=====

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

本校では、2024年4月のキックオフ会議において、成績、検定取得、退学者などに関する目標を設定し、教職員が情報を共有し周知できる体制を整えています。

取り組みの進捗状況については、毎月クラス運営報告書を通じて、就職率・資格取得率・退学状況などをクラスごとに報告し、学校法人麻生塾経営企画グループが開催する経営会議及び教職員会議で定期的に振り返りを行っています。

特に、2023年3月実施の美容師国家試験合格率は当初の目標を下回り、重要課題の一つとなっています。そのため、効果的な授業内容の実施、自宅学習が可能な動画教材の活用、学生の自主性を引き出す取り組みを継続的に進めています。また、試験の傾向分析を行い、その情報を共有することで、高い合格率を達成するために組織全体で取り組んでいます。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	A
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

本校では、卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性や効果について、各企業からの意見をヒアリングし、その情報を教育活動に反映しています。

卒業生の動向や就業状況は、各就職先企業との密なコミュニケーションを通じて概ね把握できています。また、卒業生がコンペティションで入選した実績や離職に関する情報は、教職員会議などで共有し、教職員全体で情報を活用しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	S

=====

基準 5 学生支援

=====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

1. 就職・進路支援

担任および就職担当者が全学生との面談を実施し、希望する職種や地域を把握しています。また、就職関連の書類作成や面接練習を行い、個別支援を強化しています。

2. 学生相談体制

担任を中心に学生の状況を確認し、必要に応じて保護者等を含めた適切な支援方法を提案しています。

3. 経済的支援

担任と学校法人麻生塾キャリア支援グループが連携して状況を確認し、保護者等を含めて適切な方法を提案しています。特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度など、多様な支援制度を提供しています。

4. 健康管理体制

健康診断を実施し、病欠時には病名や状況を確認する体制を整えています。

5. 生活環境の支援

学生寮の紹介や、必要な学生に対するWi-Fi（登録商標）やPCの貸出を行っています。

6. 保護者等との連携

出席状況や成績、体調など学生の状況を保護者等に随時連絡し、密なコミュニケーションを図っています。

7. 卒業生への支援

「ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT」を通じて、転職相談や再就職の斡旋を行っています。

8. 社会人学生（通信課程）への支援

Microsoft Teams（製品名）を活用したチャットでの連絡・相談を実施するとともに、動画コンテンツを利用可能な環境を整備しています。また、通信課程は専門実践教育訓練講座の指定を受けています。

9. 課外活動支援

希望者には部活動の場を提供するとともに、外部との連携によるヘアメイクイベントなどを定期的を開催しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-8	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S
5-1-9	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。夜間学科及び通信課程を設定している学校が評価対象。

=====

基準 6 教育環境

=====

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾福岡キャンパスでは、共用施設として総合図書館を設置しています。総合図書館では、利用規程やルールを定めて学生便覧に掲載し周知しています。

また、固定資産管理規程に基づき、図書や雑誌を含む資料類を適切に管理しています

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

本校では、インターンシップにおいて企業と連携し、報告書および学生評価書の記入を依頼し、全学生分の評価書類を企業から頂いています。

また、アクシデントが発生した場合には、担当者が各企業を直接訪問し、問題解決に努めました。

さらに、インターンシップ時や通学中、学内での事故に備え、学生全員が学生災害傷害保険に加入済です。

学内の防災対策については、火災や地震発生時に備えて避難訓練を実施しました。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	S
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S

=====
基準 7 学生募集
=====

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

本校では、学生募集および入学者選抜を、募集要項およびホームページで公表している入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき実施しています。この方針は、学校の教育理念や育成する人材像を反映して策定しており、その内容をホームページ、募集要項、学校説明会などで広く公開しています。社会に対しては、ホームページの情報公開欄に記載して公開しています。

教育成果を含む学校情報については、実績に基づき、学校案内、ホームページ、SNS（ソーシャルメディア）、オープンキャンパスの説明資料に明記し、公開しています。

学生募集活動は、学校法人麻生塾キャリア支援部と連携し、適正に行っています。また、入学者選抜についてはアドミッション・ポリシーに基づき、学校法人麻生塾学生支援グループと連携して適正に実施し併せて、「来校」または「オンライン」より選択し受験できるようにしており、遠隔地の学生や感染症拡大のリスクにも対応できるように実施体制を整えています。また、その運用に関するノウハウや情報を Microsoft Teams で共有することで、公正かつ適切に入学選抜を実施しています。

校納金等は定期的に検証した上で募集要項に明記し、入学希望者等に公表しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金（学生納付金）等は妥当なものとなっているか。	S

=====
基準 8 財務
=====

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾では、法務グループや教育推進グループなどの関係部署と連携し、学校教育法、私立学校法、美容師養成施設指定規則、専修学校設置基準などの法令を遵守して学校運営を行っています。また、届出、申請、報告などの手続きを確実に実施し、教務室内には『理容師・美容師関係法令通知集』を備え、いつでも確認できる体制を整えています。

さらに、法令に基づき、個人情報保護、ハラスメント防止、危機管理に関する学内諸規程を整備し、適切に運用しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	S

=====
基準 10 内部質保証
=====

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

本校では、学校教育および学校運営について毎年、自己点検・評価を実施しています。自己点検は担当教職員を中心に評価を行い、改善・向上に向けた取り組みを進めています。また、自己点検・評価活動の担当委員を選任し、委員を中心として自己点検・評価、学校関係者評価、そして結果の公表までの各段階を確実に実施しています。

具体的には、職業実践専門課程の認定要件に基づき、学校関係者評価委員会を年1回、教育課程編成委員会を年2回開催し、有識者や関連企業関係者から定期的に意見を収集しています。それらをもとに、教育活動や学校運営について検証を行い、指摘事項があれば改善に取り組み、その結果を改善報告書としてまとめています。さらに、自己点検・評価結果および学校関係者評価結果は、学校のホームページで公表しています。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

=====

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

本校では、GCB 教育（グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育）の方針に基づき、学校の教育資源や施設を活用して毎年、社会貢献・地域貢献活動を奨励しています。

具体的な学生のボランティア活動として 2024 年 10 月に地域の公民館活動の一環としてメイクアップ講座へ講師として教員及び学生が参加し地域の住民の方々との交流を行いました。これらの地域貢献活動に参加した学生にとって貴重な経験となりました。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S